研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-510		17-077	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Influence of hiatal hernia and male sex on the relationship between alcohol intake and occurrence of Barrett's esophagus.

裂孔ヘルニアと性別がアルコール摂取とバレット食道発症との関係に及ぼす影響

執筆者

Masuda A, Fujita T, Murakami M, Yamazaki Y, Kobayashi M, Terao S, et al.

掲載誌

PLoS One. 2018 Feb 15;13(2):e0192951. doi: 10.1371/journal.pone.0192951.

キーワード	PMID
裂孔ヘルニア、男性、アルコール消費、バレット食道	29447244

要　旨

背景：

アルコール摂取とバレット食道（BE）発症との関連は一貫していない。裂孔ヘルニアおよび性別が男性は BE のよく知られた危険因子であるが、アルコール摂取と BE 発症との関連に及ぼす影響は不明のままである。

目的：

BE 発症に対するアルコール摂取の影響が、性別および裂孔ヘルニアの有無によって異なるかどうかについて調べた。

方法：

多施設共同コホート研究（上部胃腸疾患研究）において、健康診断のために上部内視鏡検査を受けた患者 8,031 人のデータベースを利用した。発症は内視鏡で診断された者とし、多変量ロジスティック回帰分析を行った。アルコール摂取量と、性別および裂孔ヘルニアの有無によって層別化し、臨床的特徴および他の潜在的交絡因子を用いて調整を行った。

結果：

アルコール摂取量（20g /日以上）では、裂孔ヘルニアの有無と関連が認められなかった（裂孔ヘルニアがない者の OR=1.62，95%CI：0.92-2.85，P=0.09，裂孔ヘルニアがある者の OR=0.99，95%CI：0.59-1.65，P=0.95）。また、男性の裂孔ヘルニアが無い者において、アルコール摂取量（20g /日以上）は、BE 発症と有意に関連していた（OR=1.98，95%CI：1.04-4.03，P=0.04）が、裂孔ヘルニアの無い女性では関連が認められなかった（OR=0.47，95%CI：0.03-2.37，P=0.42）。

結論：BE 発症に対するアルコール摂取の影響は、食道裂孔ヘルニアの状態および男性性別と関連している可能性がある。